

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千里丘駅西地区第一種市街地再開	階数	地上6F
建設地	大阪府摂津市千里丘	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	712人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年2月26日
敷地面積	1,050 m ²	作成者	福嶋 輝
建築面積	633 m ²	確認日	2024年2月27日
延床面積	3,049 m ²	確認者	山本 盟

本図を右クリックし、「図の変更」を選択していただくことで、外観図等を貼り付けることができます。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 西側道路、南側道路(シンボルロード)に面して、カーテンウォール及びフィンを設け、開放的な空間を演出している。 また、近接して建設予定の1街区の建物と外観を合わせる事により、一体感が出る様配慮している。 南側道路(シンボルロード)に面する部分においては、1階部分の壁をセットバックさせる事により、歩行者の動線を確保し開放感のある空間としている。		
Q1 室内環境 南側にカーテンウォールを設け、また居室を南側に配置する事により良好な室内環境になる様、配慮している。	Q2 サービス性能 内装仕上げに関して、床・壁面において防汚性の高い建材を採用し、維持管理が行いやすいよう配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 道路を挟んで向かい側に出来る1街区の建物と外観を合わせる事により、周囲のまちなみに調和させている。
LR1 エネルギー 共用部の照明器具にはLED照明を採用している。	LR2 資源・マテリアル 仕上材料には、ほとんどの部分にF☆☆☆☆を採用している。	LR3 敷地外環境 極力地表部には緑地を設ける事により、周囲の温熱環境改善に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	千里丘駅西地区第一種市街地再開発事業新築工事(2街区商業業務施設)					
	建設地	大阪府摂津市千里丘					
	用途/区分	事務所 物販店 病院					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					4	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.0	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.2	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.9	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		